

ネイチャー高知

発行 高知県自然観察
指導員連絡会

事務局 高知市みづき1
丁目310-8 三本健二方

題字 会長 澤良木庄一

No. 11 1997 (平成9) 年8月10日発行

事務局からのお知らせとお願い

- 1 代表世話人の転居に伴い、事務局が次のところへ移転しました。
〒780 高知市みづき1丁目310-8 三本健二方
電話・Fax. 0888-23-3198
- 2 今年の事業として、2件の野外研修会が計画されています。
1件は昆虫、もう1件は地学(化石など)を中心にしたものです。昆虫については、講師をお願いした方(本会会員)の都合がつかず、このままですと中止になります。会員のなかで、講師になっていただける方は、御連絡ください。
地学については、高知市内での白亜紀化石の採集、秋に開館する「横倉山自然の森博物館」(越知町)の見学などが考えられますが、御要望をお寄せください。
- 3 本誌の原稿をお寄せください。
会報の充実は、「連絡会」という名前の本会にとってきわめて重要なことだと思いますが、皆さんいかがですか?
次号の原稿締切は、9月30日です。
- 4 本会会則について御意見をお寄せください(書面で)。
来年の総会で役員(任期2年)の改選が行われます。それにあわせて会則を整理、改正することが課題になっています。
現行の会則は、本誌4号と5号(95年の一部改正)の両方を御覧ください。特に次の点についてお考えをお聞かせください。
○名誉会員(会費不要の会員で会の相談役; 現実には不在)の必要性…たとえば顧問(非会員)などに改めるとか、廃止するとか ○幹事(助言・指導者)の名称と位置付け…たとえば副会長(定員若干名; 現在1名)に移行するとか ○代表世話人(日常の事務処理)と世話人(代表世話人への援助)の関係…たとえば運営委員という名称にし、日常の事務処理を委員が分掌するとか ○会費の納期…不能欠損を防ぐため「2月末まで」に改めるとか

人にとって大切なもの

人が大切にしたいもの。それは平和や平等など抽象的で普遍的なものからはじまり、自宅の庭のチューリップや籠のなかのジュウシマツなど身近なものにいたるまで、さまざまである。では翻って人にとって大切なものとして考えたならば、それは平和な社会や平等な社会というふうになる。だが、チューリップやジュウシマツは必ずしも全員に重要な要素ではない。

人という主体を取り巻く「環境」のなかの同じ一要素だが、何が違うのか。それは恐らく、人の成長や繁栄にとって寄与度が異なるから区別されるのだと思う。

では寄与度は何を基準にしているのか。断言できないが、それは人の生活を安定化させる深層の基盤であるかどうかということではないか。

たとえば、高知市で考えてみると、北山や南の鷺羽山という借景をもち、市内の中心部にいてもそれらを目にすることができる。でも多くの人にはそれを意識することなしに眺め、目前にある公園の花木に目を奪われている。深層をささえるものとして重要なもの。それは見えていて見えない借景のようなものではないだろうか。つまり背骨（バックボーン）と指先の骨（フィンガーボーン）という違いで区別される。

この考え方は、子供の環境教育にも適用できる。たとえばテーマパークや動物園、水族館のような規模は小さいが凝縮された自然がある。この自然は、子供の興味をそそることができるし、名前を覚えたりすることで環境教育の教材として重要である。ところがそれらに触れることはできないし、できたとしても管理者が定めたあらゆる注意点がある。その上、最も重要なことだが、殺生ができない。

美しいものをたくさん見せ、聞き、触れる。こうしたことでも子供の自然への勧誘は十分できるし、子供自身も多くのことを学ぼう。しかしそこには社会のルールがあり、忠実に守らなければならない現実がある。本来、環境教育とは自然のなかで自らの発見によってその真実を学ぶことだと思っている。すると、そこで子供が得ているものは、地球の中の人間という立場での教育ではなく、社会の中の常識人という立場での教育ではないだろうか。これでは英数国理社の教養と同列にあることになる。環境教育とはもっと違う位置付けがされるべきなのに。

私が望む環境教育は、ありあまるほどの自然が教材で、そこにミツバチを解き放つように放り出す。そこで好き放題の殺生をさせるのだ。花を摘み、虫を捕獲し、羽をむしり、こうした中で、自分のしていることを体験的に理解させていく。決して止めさせない。むしろやっている行為を分からせて、その子に自分なりのルールとモラルをつくらせる。大人はその補助をしてやる。この花は数が少ないから摘んではだめだとか、いいとか。

これが第一段階、そして今度は違うところ、自然が破壊されたところへ連れていく。おそらく何かを感じるだろう。そして最後の段階で、その破壊箇所が人間の手によって復元されようとしているところを見せる。

最後の段階に至るまでは十分な時間を要するだろうが、子供が無意識のうちにする行為のなかで、子供のバックボーンは育てることができると思う。決してテーマパークの花壇を見せ「どうだきれいだろう」だけで学ばせてはならない。

閑話休題、農村計画の思想と技術を学ぶ勉強会を発足したいと、まだ準備段階ですが、数名の方々と進めています。都市計画を主導とする計画事業は20世紀で終わりにしてほしいと思う。農村には農村の考え方ややり方を持ち込み、将来に永続発展するような地域づくりができればと願っている。

e-mail: idol@ps.inforyoma.or.jp

TAMファーム ニラ栽培 田村雄一 (30才)

日本最古の化石

古生代は6つの時代(紀)に分けられます。その古いほうから2番目がオルドビス紀、3番目がシルル紀です。

越知町横倉山のサンゴや三葉虫などの化石は、シルル紀のもので、岩手県などの同時代の化石とともに「日本最古の化石」と呼ばれてきました。17年前にさらに古いオルドビス紀の化石が岐阜県で発見され、そちらが日本最古になりましたが、オルドビス紀のものだとする根拠がいまひとつ不確かだという意見もありました。そのため、シルル紀の化石こそ「年代のはっきりした日本最古の化石」だとも言われてきました。

ところが、昨年確実なオルドビス紀の化石が発見され、今年2月に日本地質学会発行の『地質学雑誌』に論文が掲載されました。その産地は、20年ほど前に発表されたオルドビス紀化石の産地の近くで、同じく岐阜県上宝(かみから)村に位置しています。発見された化石は、地層の年代決定に有効な放散虫という微生物ですから、これが「年代のはっきりした日本最古の化石」だということになります。

(三本健二)

“ジャンボタニシ”について



高知市や南国市などでは、水路や水田で赤いジャンボタニシの卵塊が目につきます。この貝は、南米の熱帯～亜熱帯が原産地で、食用に養殖されていたのが野生化したものです。

高知県が今年から実施している「ふるさとグリーンセンサス」では、貝類としてただひとつ調査対象種に選ばれています。調査結果から、この帰化種が県下にどのように広がっているのか分かることでしょう。

ところで、この貝の名前はジャンボタニシで通っていますが、これは愛称でして、和名はスクミリングガイといいます。一時期ラプラタリングガイの名前で報告されたこともあります。波部忠重博士によってスクミリングガイのほうに同定されました。分類学的にはタニシ科に近いタニシモドキ科(=リングガイ科)に属しています。

(三本健二)

地質絵葉書の入手方法

前号で紹介した高知地学研究会発行のカラー絵葉書『四国地質ガイド 第1集』は、郵送で頒布を受けられるようになりました。郵便振替で頒価と送料(計990円)を送金すれば送付されます。口座番号は01650-9-26415、加入者名は高知地学研究会です。

(三本)

受贈雑誌, 受信文書など (刊行物は最新号の紹介)

◎『山と野原』 山と野原の会 (高知市一宮3027-17 小松康秀様方)

83号 (97年7月) : 会務報告/告知板/山のたより/新入会員の紹介/山行企画/山行記録/山行レポート/山行つれづれ/山行歳時記

◎『ネイチャー・ウォッチング』 かがわ自然観察会

105号 (97年7月) : Monthly photo letter/定例会の案内/わんぱくアドベンチャーキャンプスタッフ募集/県主催第2回「身近な自然」の観察会の御案内/梅雨の晴れ間の「いただきますあす!」/小山ポン・と帳記/フィールドだより/定例会報告/編集後記

◎『21世樹』 光洋建設 (株)

第13号 (97年7月) : Mother green/里山の森と川はこうして壊れた/自然もみんなもアーティスト/軽井沢・森の四季/地球丸の救出/『自然』は僕たちの先生/雑木林物語/海から届く声/ほんとうのこと/箱根むかし/森と日本人

◎第14回「自然は友だち わたしの自然観察路コンクール」の協力依頼

作品: 絵地図と解説文/応募資格: 全国の小・中・高校生/締切: 97年9月20日/送付先・問合せ先: (財) 国立公園協会 ☎03-3502-0488

◎NHK学園「自然観察講座」の案内 (リーフレット)

コース名: 自然に親しもう〜自然観察入門〜/受講料: 27,000円/受講申込: 所定の申込書を郵送/問合せ先: NHK学園「自然観察講座」係 ☎0425-72-3151

◎「昭和の森」公園内の調整池計画について

自然観察指導員 金田正人氏 (神奈川県葉山町在住) から

調整池建設計画の撤回を要望する, 千葉県自然観察指導員協議会の活動の紹介

◎漂着重油交換展の案内

主催: 漂着重油交換展企画室

連絡先: 同企画室 上田麻希 慶応義塾大学藤幡研究室内 ☎0466-47-5352

◎屋久島の「ヒュッテ フォーマサンヒロ」からの案内

1泊2食7,000円 (税・サ込) [NACS-J会員は10%引き]

☎09974-7-3389・3369 Fax 09974-7-3390

会員異動

◎住所変更 橋本 淳

三本 健二

◎入会 箭野 雅美